
 ニ ュ ー ス

日本の火山活動概況（2013年5月～6月）

気 象 庁

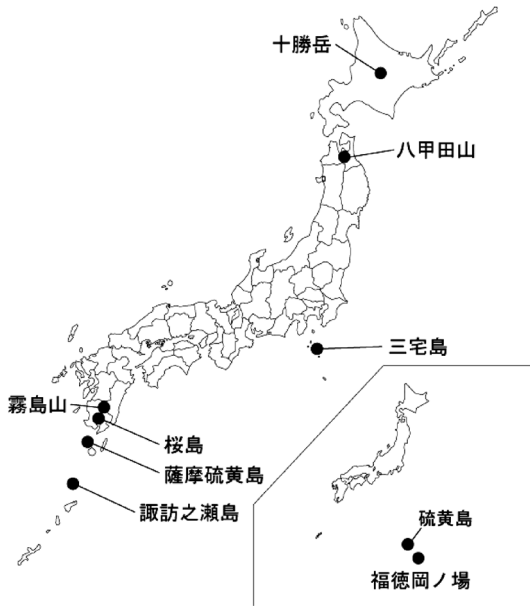


図 1. 2013年5月～6月に目立った活動があった火山

十勝岳 ($43^{\circ}25'04''\text{N}$, $142^{\circ}41'11''\text{E}$)

6月9日20時30分頃から23時10分頃にかけて、大正火口付近が高感度カメラで明るく見える現象が観測された。この現象の発生は昨年8月13日以来で、規模としてはごく小規模なものだった。同現象は火口内での高温の火山ガスの噴出や硫黄の燃焼等によるものと推定される。この現象の前後で、火山性地震の増加や火山性微動は観測されず、地殻変動及び空振データにも特段の変化はなかった。7月3日（期間外）にも同様の現象が観測された。

火山活動は概ね静穏に経過しており、火口周辺に影響を及ぼす噴火の兆候は認められない。しかし、ここ数年、山体浅部の膨張や大正火口の噴煙量増加及び地震増加などが観測されているほか、地方独立行政法人北海道立総合研究機構地質研究所によると山麓の温泉成分にわずかな変化が認められている。

八甲田山 ($40^{\circ}39'32''\text{N}$, $140^{\circ}52'38''\text{E}$)

東北地方太平洋沖地震（2011年3月11日）以降、八甲

田山周辺を震源とする地震が増加した状態で経過している。また、2013年2月以降、山頂付近が震源と考えられる火山性地震が散発的に発生している。山頂付近の地震活動は、4月下旬以降、やや増加傾向となっており、今期間もやや多い状況で経過している。

国土地理院による山体周辺の地殻変動観測では2013年2月頃以降、小さな膨張性の地殻変動がみられる。表面現象に変化はみられない。

三宅島 ($34^{\circ}05'37''\text{N}$, $139^{\circ}31'34''\text{E}$)

火山ガス放出量は、長期的に減少傾向にあり、2月以降はやや少量となっている。5月17日に実施した現地調査では、二酸化硫黄の放出量は1日あたり400トンで、引き続きやや少量の火山ガス放出が観測された。三宅村によると、山麓ではまれにやや高濃度の二酸化硫黄が観測されている。

火山性地震は概ね少ない状態で経過した。震源は山頂火口直下に分布しており、これまでと比べて特に変化はなかった。火山性微動は観測されなかった。

GPS連続観測によると、2000年以降、山体浅部の収縮を示す地殻変動は徐々に小さくなりながら現在も継続している。島の南北を挟む長距離の基線で2006年頃から伸びの傾向がみられるなど、山体深部の膨張を示す地殻変動が継続している。

硫黄島 ($24^{\circ}45'02''\text{N}$, $141^{\circ}17'21''\text{E}$ (摺鉢山))

島西部の旧噴火口（通称：ミリオンダラーホール）では、昨年（2012年）2月上旬から水蒸気爆発が度々発生しているが、今期間、噴火の発生はなかった。

5月24日と6月16日に一時的な火山性地震の増加がみられた。その他の観測データに特段の異常は認められなかった。国土地理院の地殻変動観測では、沈降・停滞・隆起を経て、2013年4月頃からほぼ停滞していたが、5月頃から隆起の傾向がみられている。

福德岡ノ場 ($24^{\circ}17'05''\text{N}$, $141^{\circ}28'52''\text{E}$)

5月12日に海上保安庁が実施した上空からの観測によると、福德岡ノ場付近の海面に火山活動によると思われる乳白色の変色水が湧出点付近を中心に直径約50m、そこから南へ長さ約400mの範囲に確認された。同海域に浮遊物は認められなかった。また、6月25日に海上自衛隊が、6月29日に海上保安庁が実施した上空からの観測によると、福德岡ノ場付近で火山活動によると思われる

る変色水は認められなかった。

これまでの観測によると、福徳岡ノ場ではしばしば火山活動によるとみられる変色水や浮遊物が確認されている。

霧島山 (新燃岳) (31° 54′ 34″ N, 130° 53′ 11″ E (新燃岳))

新燃岳では、今期間噴火は発生しなかった。噴煙活動に特段の変化はなく、火山性地震も少ない状態で経過した。火山性微動は今期間観測されなかった。5月上旬と下旬には、大浪池西方の深さ4km付近に地震が発生した。5月23日に実施した現地調査では、二酸化硫黄は検出されなかった(最後に検出されたのは2012年9月26日の1日あたり10トン)。

5月21日に海上自衛隊第72航空隊鹿屋航空分遣隊の協力を得て実施した上空からの観測によると、火口内にとどまる程度の弱い白色の噴煙が上がっていた。火口内に蓄積された溶岩の形状や大きさは、前回(3月8日)と比較して変化は認められなかった。溶岩上には小さな水たまりを数カ所確認した。赤外熱映像装置による観測では、噴煙がみられる部分や火口内に蓄積された溶岩の縁辺部(特に南側)を中心に高温部分が認められ、前回と比較して変化は認められなかった。西側斜面の割れ目では、噴煙は認められなかった。

国土地理院の広域的な地殻変動観測結果では、新燃岳の北西地下深くのマグマだまりへのマグマの供給に伴う地盤の伸びの傾向は2011年12月以降鈍化・停滞している。一部の基線で、2012年5月頃からわずかな縮みの傾向がみられ、同年9月頃から停滞していたが、2013年4月頃から再びわずかな縮みの傾向がみられる。

桜島 (31° 34′ 38″ N, 130° 39′ 32″ E (南岳))

昭和火口では、活発な噴火活動が継続した。噴火の回数は、5月が70回(そのうち爆発的噴火は58回)、6月が18回(そのうち爆発的噴火は17回)であった。大きな噴石が3合目(昭和火口から1,300m~1,800m)まで達する爆発的噴火が、5月7日、11日、13日、14日に発生した。5月30日の爆発的噴火では、ごく小規模な火砕流が昭和火口の東約700mまで流下した。噴煙の最高高度は、5月8日と6月13日の爆発的噴火により、火口縁上3,300mまで達した。また同火口では、夜間に高感度カメラで明瞭に見える火映を時々観測した。

南岳山頂火口では、今期間噴火は発生しなかった。

火山性地震は少ない状態で経過した。噴火に伴う火山性微動が発生した。

COMPUSSを用いたトラバース法による火山ガス観測を期間中3回実施した。二酸化硫黄の平均放出量は1日

あたり2,100~3,400トンと多い状態であった。

有村観測坑道の水管傾斜計(大隅河川国道事務所設置)では、2012年8月頃から山体が沈降する傾向がみられたが、2013年1月頃から停滞し、2月頃から隆起の傾向となっている。大隅河川国道事務所の有村観測坑道及び京都大学防災研究所のハルタ山観測総合坑道に設置している傾斜計及び伸縮計では、5月27日頃から山体の膨張と考えられるわずかな変化が認められたが、5月31日頃から変化は鈍化し6月2日頃から停滞し、この山体膨張による噴火の可能性は低くなった。

5月21日に海上自衛隊第72航空隊鹿屋航空分遣隊の協力を得て実施した上空からの観測では、昭和火口から灰白色の噴煙が勢よく噴出していた。赤外熱映像装置によると、火口内には噴煙の噴出口及び噴出物に対応したと考えられる高温域(250℃以上)が認められた。昭和火口周辺の状況に特段の変化は認められなかった。南岳山頂火口は火口内にとどまる程度の噴煙が上がっており、火口内及び火口周辺の状況に特段の変化は認められなかった。赤外熱映像装置によると、B火口壁の熱異常域が引き続き認められた。

GPS連続観測では、2012年10月頃から桜島内のわずかな縮みの傾向がみられたが、2013年1月頃から鈍化している。また、国土地理院の地殻変動観測結果では、始良カルデラ(鹿児島湾奥部)深部の膨張は2012年11月頃から停滞しているようにみえるが、一部の基線ではわずかながら伸びの傾向が続いている。

鹿児島県のデータをもとに解析した降灰量は、2013年5月は50万トン、6月は10万トンであった。

薩摩硫黄島 (30° 47′ 35″ N, 130° 18′ 19″ E (硫黄岳))

薩摩硫黄島では、5月の中旬から下旬にかけて、振幅の小さな火山性地震が一時的に増加した。6月3日から5日にかけて、硫黄岳でごく小規模な噴火が時々発生した。これに伴い、6月4日09時50分に火口周辺警報を発表し、噴火警戒レベルを1(平常)から2(火口周辺規制)に引き上げた。この噴火に伴い振幅のごく小さな火山性微動が時々発生した。火山性地震は少ない状態で経過した。

6月4日に第十管区海上保安本部の協力を得て実施した上空からの観測では、雲のため火口の状況は不明だったが、乳白色の噴煙と降灰を観測した。

三島村役場硫黄島出張所および鹿児島中央警察署硫黄島駐在所によると、6月6日以降、降灰は確認されていない。

6月13日に九州地方整備局が上空から撮影した映像を福岡管区气象台で分析したところ、2012年12月26日

に実施した上空からの観測結果と比べ、硫黄岳東側斜面上部の噴気孔が拡大しているのを確認した。今回の噴火では、この噴気孔から火山灰を噴出した可能性がある。

同火口では夜間に高感度カメラで確認できる程度の微弱な火映を時々観測した。

諏訪之瀬島 (29° 38' 18" N, 129° 42' 50" E (御岳))

御岳火口では、今期間爆発的噴火は発生しなかった。同火口では夜間に高感度カメラで確認できる程度の微弱な火映を時々観測した。

2012年9月28日からほぼ連続していた火山性微動は6月1日で一旦終了し、12日以降再び連続して発生するようになった。

(お知らせ) 最新の火山活動解説資料は気象庁ホームページの以下のアドレスに掲載しています。

URL http://www.seisvol.kishou.go.jp/tokyo/STOCK/monthly_v-act_doc/monthly_vact.htm

(文責：気象庁地震火山部火山課 長岡 優)

○人事公募

【京都大学理学研究科地球熱学研究施設】

1. 職種・人員：京都大学大学院理学研究科 准教授・1名
2. 専門分野：地熱流体論研究分野

地殻内の水や熱の流れを、水文学・地球熱学など、フィールドに立脚した地球物理学的手法によって総合的に理解する研究と教育を推進できる方

なお、理学研究科では、研究科附属施設の整備を進め、教育研究の高度化に資することとしてきた。本施設は、地球惑星科学専攻の一員として「水・熱フロー」をキーワードとした多目的野外観測拠点を形成し、活地球圏における物質とエネルギーの循環過程の理解を深めるとともに、京都キャンパスにおける地球熱学の基盤教育研究拠点を形成して若手研究者育成に努めてきた。これらの観点から、本施設が位置する九州地域の火山や熱的特性を活かした研究・教育や京都キャンパスでの教育・研究の進展に寄与できる方が望ましい。採用後は、理学研究科地球惑星科学専攻の教育・研究に従事する。

3. 応募資格および条件：

- (1) 博士の学位を有すること
- (2) 学部および大学院の教育に意欲的に取り組むこと
- (3) アウトリーチ活動など社会連携に積極的であること

4. 着任地：地球熱学研究施設本部(大分県別府市野口原)

5. 着任時期：採用決定後、できるだけ早い時期

6. 任期：なし

7. 応募書類：

- (1) 履歴書(氏名、生年月日、年齢、現住所、連絡先および e-mail、高校卒業から最終学歴まで、職歴、資格等、博士学位の名称・取得大学・取得年月日・論文名)
- (2) 研究業績目録
 - A. 査読のある論文や総説
 - B. 査読のない論文や総説
 - C. 著書
 - D. その他の出版物などで特に参考となるもの
- (3) 主な論文の別刷または著書3編以内(複写可)
- (4) 上記(3)の論文または著書それぞれについて、内容と意義をA4用紙1枚ずつにまとめたもの
- (5) これまでの研究経過(2000字程度)
- (6) 今後の研究および教育についての計画と抱負(2000字程度)
- (7) 本人について参考意見を述べられる方2名の氏名・連絡先

8. 応募締切り：

2013年7月29日(月) 必着

封書に教員公募と明記し、簡易書留にて郵送すること

なお、応募書類は本選考のためにのみ使用し、返却しません

9. 面接：選考段階で、面接または講演をお願いすることがあります

10. 書類の送付先および問い合わせ先：

〒606-8502 京都府京都市左京区北白川追分町

京都大学大学院理学研究科附属地球熱学研究施設

京都分室 鍵山恒臣

電話 075-753-3792

e-mail kagiyama@aso.vgs.kyoto-u.ac.jp

施設の概要はホームページ <http://www.vgs.kyoto-u.ac.jp/> をご覧ください

(上記のお知らせは火山学会メーリングリストに5月27日送信しました)

【電力中央研究所】

1. 職種・人員：特別契約研究員 1名

2. 専門分野：噴火実績の解明やテフラの広域的な対比について研究するため、火山灰層序学や火山地質学を専攻し、テフラや各種の火山噴出物を野外・鏡下で観察・記載することができ、加えて地球化学に関する機器分析技術を有しており、研究業務に意欲を持つ

て取り組んで頂ける方を歓迎致します。

3. 着任時期：決定後できるだけ早い時期

4. 提出書類：

- (1) 履歴書
- (2) 博士論文およびこれまでの研究概要（2,000 字程度）
- (3) 研究業績リスト（研究論文、著書、国内外における学会活動、特許など）
- (4) 学位取得証明書
- (5) 健康診断書または健康診断証明書

5. 公募締切：平成 25 年 8 月 23 日（金）必着

6. 応募窓口（書類送付先）

〒270-1194 千葉県我孫子市我孫子 1646

電力中央研究所 我孫子運営センター スタッフ

入江 真

電話 04-7182-1181（代）

7. 問い合わせ先

詳細は下記を参照のこと

<http://recruit.denken.jp/ninkituki/subject/#post-1381>

ご不明点などについては、以下のアドレス宛お問い合わせください。

地球工学研究所 採用窓口：

saiyo_na@criepi.denken.or.jp

（上記のお知らせは火山学会メーリングリストに 5 月 31 日送信しました）

【東京大学地震研究所】

1. 募集職種：技術職員 1 名

2. 勤務場所：東京都文京区弥生 1-1-1 東京大学地震研究所

3. 職務内容：本件で求める技術職員の職務内容は下記の通りです。

地震や地殻変動などの地球物理現象を観測するため、野外で観測機器の設置、調整などを行うことが主たる業務です。作業場所には、火山や海域（船上）が含まれます。さらに、様々な機器を用いた観測だけでなく、取得した観測データの基本的な処理・解析、古記録を含む地震記録の整理およびアーカイブの構築と公開、観測機器等の管理、既存の観測施設の点検・保守も業務に含まれます。地震や火山噴火現象に興味を持ち、その解明に熱意をもつ人、観測・データ処理・データ解析等の技術の向上に意欲と能力を持つ人を望みます。野外での観測・調査活動、計測や計測機器開発、電子工作やソフトウェア・プログラミングなど、地球物理観測業務に応用できる経験や技術を有する者は、その専門を問いません。

4. 応募資格：

4 年制大学理工系学部卒業以上で、2 年程度以上、上記の地球物理観測業務に応用できる職務経験を有すること。ただし、大学院等における研究歴は資格要件の職務経験に含まれます。

平成 26 年 3 月修士課程修了見込みの方の応募も歓迎します。

※ただし、次の者は応募できません。

- 1) 成年被後見人及び被保佐人（準禁治産者を含む）
- 2) 禁錮以上の刑に処せられ、その執行を終えるまでの者、又はその刑の執行猶予の期間中の者、その他その執行を受けることがなくなるまでの者
- 3) 懲戒解雇又はこれに相当する処分を受けたことのある者で、その処分の日から 2 年を経過していない者
- 4) 日本国内における活動に制限のない在留資格を有しない者

5. 応募期限：平成 25 年 7 月 1 日（月）正午必着

6. 採用予定時期：平成 25 年 10 月 1 日

（ただし、平成 26 年 3 月修士課程修了見込みの場合は平成 26 年 4 月 1 日）

7. 応募書類：

1) 履歴書（東京大学統一履歴書フォーマット）

下記 URL よりダウンロードしてください。

URL：http://www.u-tokyo.ac.jp/per01/r01_j.html

東京大学 HP > 研究者・職員公募 > 東京大学統一履歴書フォーマット

2) 小論文（書式自由）

本公募に応募した理由 2,000 字以内

3) 職務経歴書（書式自由）

経歴ごとに企業や大学院等の職務・研究内容を具体的に記述

* 連絡に使用しますので、連絡用メールアドレスを必ず記入してください。

8. 選考方法等：

小論文及び職務経歴書等にもとづく書類選考、及び面接選考により決定します。

第一次面接試験日時等は書類選考後、合格者へ個別に連絡しますが、下記の日程を予定しています。

1) 第一次面接試験：平成 25 年 7 月 15 日（月・祝）

2) 第二次面接試験：平成 25 年 7 月 29 日（月）

※適任者がいない場合、決定を保留します。

9. 勤務条件等

下記 URL を参照してください。

URL：http://www.u-tokyo.ac.jp/recruit/info/kinmu_j.html

東京大学 HP > 研究者・職員公募 > 東京大学職員

採用試験・国立大学法人等職員採用試験＞働く環境
＞勤務条件・福利厚生

10. 応募書類提出先及び問合せ先

〒113-0032 東京都文京区弥生 1-1-1 東京大学地震研究所庶務チーム（人事）

電話：03-5841-5668 E-mail：jinji@eri.u-tokyo.ac.jp

応募書類は封筒に【技術職員応募】と朱書し，書類提出先まで送付して下さい。

原則として，応募書類は返却いたしませんので，予めご了承ください。

11. 地震研究所の説明

URL：http://www.eri.u-tokyo.ac.jp/laboratory/history.html

12. 地震研究所技術部の職員からメッセージ 地震研究所技術部の職員からメッセージ

URL：http://www.eri.uhttp://www.eri.u-tokyo.ac.jp/recruit/message/syukai.html

tokyo.ac.jp/recruit/message/syukai.html tokyo.ac.jp/recruit/message/syukai.html

tokyo.ac.jp/recruit/message/syukai.html tokyo.ac.jp/recruit/message/syukai.html

(上記のお知らせは火山学会メーリングリストに5月31日送信しました)

【新潟大学教育研究院自然科学系】

1. 所 属：新潟大学教育研究院自然科学系 環境科学系列

2. 担当学部・研究科：理学部 地質科学科
大学院自然科学研究科 環境科学専攻 地球科学コース

3. 担当予定科目

学 部：岩石・鉱物学，構造地質学，堆積・古生物学に関する何れかの専門科目，野外調査を基本とする実習科目，地学に関する基礎科目

大学院：地圏環境進化学に関わる地質科学分野の専門科目 など

4. 職種・人員：准教授 1名

5. 採用予定日：平成25年12月1日以降のなるべく早い時期

6. 給 与：国立大学法人新潟大学職員給与規程による

7. 職務内容・条件

(1) 理学部地質科学科及び大学院自然科学研究科環境科学専攻地球科学コースの教育目標と教育内容，伝統を理解し，野外調査を基本とする地質科学の教育及び研究に情熱を持って取り組むこと。

(2) 野外実習を含む地質科学の基礎科目の教育を行

うこと。

(3) 新潟大学自然科学系附置コア・ステーション「地球環境・地球物質研究センター」の活動に参画すること。

(4) 日本技術者教育認定機構（JABEE）に認定されている教育プログラムに参画すること。

8. 応募資格

(1) 博士の学位を有すること。

(2) 上記職務内容に関して優れた教育研究業績を有し，地質科学分野の教員と協力して教育研究を担える能力と熱意があること。

9. 応募書類（各1部）

(1) 履歴書（写真を貼付し，連絡先の電話番号と電子メールアドレスを明記のこと。書式は自由）

(2) 著書，学術論文（学位論文，レフェリー付きの原著論文，総説に区分）及びその他の論文（レフェリーなしの原著論文，国際会議発表論文など）を分けた研究業績のリスト。それぞれに，著者名，論文名，雑誌名，巻，最初と最後のページ，発表年（西暦）を記載し，Science Citation Indexに登録されている雑誌には，リストの番号にマーク（*）を付けること。

(3) レフェリー付きの原著論文のうち，代表的なもの10編以内の別刷あるいはコピー。

(4) これまでの研究と教育についての概要と採用された場合の研究と教育についての抱負を2000字程度にまとめた文書。

(5) 過去10年間における，科研費等の外部資金の獲得状況（代表者，分担者の区別および課題名を明記すること），特許，受賞，社会的活動状況をまとめた文書。

(6) 応募者について意見を聞くことのできる方2名の氏名と連絡先（勤務先，電話番号，電子メールアドレス）。

(注) 応募書類の形式は自由です。応募書類は選考以外の目的には使用しません。応募に関する秘密は厳守します。本公募手続きにより本学が取得した応募者の個人情報，「独立行政法人等の所有する個人情報の保護に関する法律」に基づいて適正に管理します。また，上記の応募書類は返却しません。

10. 応募の締切：平成25年8月16日（金）必着

11. 選考方法：

応募書類による選考を行います。面接による最終選考を行うことがあります。

ただし，旅費は支給しません。

新潟大学では，男女共同参画推進室を設置し，女性

研究者支援を推進しています。

女性研究者の積極的な応募を歓迎します。

(男女共同参画推進室：<http://www.niigata-u.ac.jp/geo/>)

12. 提出書類の送付及び問合せ先

(1) 送付先

〒950-2181 新潟市西区五十嵐2の町 8050 番地
新潟大学自然科学系総務課学系庶務係
(封筒の表に「教員応募書類(地圏環境進化学分野准教授)在中」と朱書きし、簡易書留で送付のこと。)

(2) 問合せ先

〒950-2181 新潟市西区五十嵐2の町 8050 番地
新潟大学理学部地質科学科
教授 サティッシュ クマール
電話 025-262-6327 (直通)
E-mail : satish@geo.sc.niigata-u.ac.jp

(3) 担当予定学部・研究科の活動内容については、以下のホームページを参考のこと。

新潟大学理学部地質科学科
(<http://geo.sc.niigata-u.ac.jp/index.html>)
新潟大学大学院自然科学研究科
(<http://www.gs.niigata-u.ac.jp/~gsweb/index.html>)
新潟大学地球環境・地球物質研究センター
(<http://geo.sc.niigata-u.ac.jp/~ceems/>)

(上記のお知らせは火山学会メーリングリストに6月25日送信しました)

【地方独立行政法人北海道立総合研究機構】

地方独立行政法人北海道立総合研究機構では、平成26年度採用予定の研究職員を募集しています。

募集区分：環境・地質(地球物理)

職務内容：地熱・温泉資源の開発及び持続可能な利用に関する調査研究

募集人数：1名

受付期限：平成25年6月28日(金)消印有効

第一次試験日：平成25年7月21日(日)

試験地：札幌市

募集要項については、こちらをご覧ください

<http://www.hro.or.jp/recruit/pdf/H25sikenyoukou.pdf>

ご応募お待ちしております

(上記のお知らせは火山学会メーリングリストに6月26日送信しました)

【防災科学技術研究所】

所 属：観測・予測研究領域 地震・火山防災研究ユ

ニット

業務内容：火山活動の観測予測技術開発プロジェクトにおいて、下記の(1)及び(2)の研究開発業務を行う。

(1) 地球物理学的手法による基盤の火山観測網および機動観測データを利用した火山活動の観測予測技術の開発と高度化に関する研究

(2) 基盤的火山観測網を整備した火山活動の把握とデータ管理と噴火予測システムの維持管理

職 種：任期付研究員(テニュアトラック制度)※1
または、定年制職員(研究職)※2

※1 任期中の業務実績により定年制職員(研究職)へ移行する。

※2 経歴、業務実績等により定年制職員(研究職)として採用する。

募集人員：1名

任 期：平成26年4月1日から平成29年3月31日
※定年制職員(研究職)で採用された場合は任期の定めなし。

勤 務 地：つくば本所 茨城県つくば市天王台3-1

給 与 等：当所規程により決定

応募資格：

- (1) 博士の学位を有する者(平成24年3月までに取得見込みの者を含む)、またはこれと同等以上の学識経験を有するものであって、本研究開発業務に従事する上で十分な研究能力と意欲を有すること。
- (2) 本業務の遂行に関連する火山学や地球物理学に関して豊富な知識を有すること。

提出書類：

1. 履歴書(別紙様式1)
2. 主要研究概要(別紙様式2)
3. 業績リスト(別紙様式3)
4. 今後の研究に関する抱負(別紙様式4)
5. 推薦書(自薦の場合は意見書：様式の指定なし)
6. 参考資料として、主要論文の別刷(3編以内：コピー可)

※別紙様式は当所指定様式をダウンロードして作成してください。

※推薦書の宛先は、「防災科学技術研究所理事長」あてとしてください。

※封筒に「研究職員(火山活動の観測予測技術開発)応募書類在中」と朱書きし、簡易書留郵便にて送付してください。

※本募集に関連して提出された個人情報については選考の目的に限って使用し、選考終了後は採用された方の情報を除き、全ての個人情報は責任を持って破棄します。

応募期限：平成 25 年 7 月 31 日 必着

面接予定：平成 25 年 8 月

※書類審査等により面接者を選考し、該当者にはご連絡します。

着任時期：平成 26 年 4 月 1 日

担当研究者：観測・予測研究領域 地震・火山防災研究ユニット 棚田俊收

TEL 029-863-7571 FAX 029-851-5658

送付先及び問い合わせ：

〒305-0006 茨城県つくば市天王台 3-1

独立行政法人防災科学技術研究所

総務部総務グループ総務チーム 丸

TEL 029-863-7718 (ダイヤルイン)

FAX 029-851-3246

E-mail : koubo@bosai.go.jp

詳細は当所ホームページをご覧ください。

<http://www.bosai.go.jp/tender/recruit.html>

(上記のお知らせは火山学会メーリングリストに 7 月 2 日送信しました)

【東京大学地震研究所】

平成 26 年度国際室外国人客員教員の推薦公募について

1. 推薦者の資格：日本在住の、国立大学法人・公・私立大学及び国、公立研究機関の教授もしくは准教授またはこれに準ずる研究者
2. 被推薦者の資格と人数：教授、准教授、助教、博士号取得後研究者もしくはそれらに相当する研究歴をもつ外国在住の研究者 若干名
3. 雇用期間：平成 26 年 4 月 1 日～平成 27 年 3 月 31 日のうち 3ヶ月以上 4. 研究分野：地震・火山および関連諸分野
5. 推薦締切：平成 25 年 8 月 31 日 (土) 必着
6. 提出書類：
 - 応募用紙 (様式 1：推薦者が記入のこと) 1 部
 - 被推薦者の履歴書 1 部
 - 被推薦者の業績リスト 1 部
 - 被推薦者の研究歴 (英語で 300-500 語程度) 1 部
 - 被推薦者の地震研滞在期間の研究計画 (英語で 300-500 語程度) 1 部
7. 宛先及び問い合わせ：
 - 〒113-0032 東京都文京区弥生 1-1-1
 - 東京大学地震研究所 国際地震・火山研究推進室

佐竹健治

Tel. 03-5841-0219

電子メール : intl-office@eri.u-tokyo.ac.jp

8. 注意事項：「国際室外国人客員教員推薦応募書類在中」の旨を記し、書留郵便で送付するか、または電子メールに添付のファイルで送付すること。
9. 選考方法：東京大学地震研究所共同利用委員会が決定する。
10. 採否の決定通知：9 月末頃までに書面または電子メールにより通知する。
(上記のお知らせは火山学会メーリングリストに 7 月 17 日送信しました)

【東北大学大学院理学研究科地震・噴火予知研究観測センター】

1. 職名及び募集人員：准教授 (任期無し) 1 名
2. 所 属：東北大学大学院理学研究科 地震・噴火予知研究観測センター
3. 研究教育内容等：地震学的手法等に基づいて火山噴火予知のための基礎研究を行う。
あわせて、学部における地球物理学や物理学に関する教育、ならびに大学院における教育と研究指導を担当する。
4. 採用予定時期：採用決定後のできるだけ早い時期
5. 応募資格：博士の学位を有すること
6. 提出書類：(応募書類は返却しません)
 - (1) 履歴書 (市販用紙可)
 - (2) 業績リスト (査読の有無を区別すること。投稿中の論文も含む)
 - (3) 主要論文の別刷り (コピー可) 5 編程度
 - (4) 研究業績の概要 (A4 用紙 2 ページ程度)
 - (5) 着任後の研究及び教育についての計画と抱負 (A4 用紙 2 ページ程度)
 - (6) 応募者に関して意見を聞ける方 2 名の氏名とその連絡先、ならびに応募者との関係
7. 応募締切：2013 年 9 月 30 日 (月) 必着
8. 問い合わせ先：
 - 東北大学大学院理学研究科地震・噴火予知研究観測センター 三浦 哲
 - Tel : (022) 795-3912, Fax : (022) 264-3292
 - E-mail : miura@aob.gp.tohoku.ac.jp
9. 応募書類提出先：
 - 〒980-8578 仙台市青葉区荒巻字青葉 6-6
 - 東北大学大学院理学研究科地震・噴火予知研究観測センター長 松澤 暢 宛
 - ※封書の表に「准教授応募書類」と朱書きし書留郵便

で送付して下さい。

10. その他：東北大学大学院理学研究科地震・噴火予知研究観測センターについて

は、ホームページ <http://www.aob.gp.tohoku.ac.jp> をご覧下さい。

11. 男女共同参画

東北大学は、男女共同参画を積極的に推進し女性教員を支援しています。詳しくは、

<http://www.bureau.tohoku.ac.jp/danjyo/2-3-2/4.htm>

及び <http://www.morihime.tohoku.ac.jp/> をご覧ください。

(上記のお知らせは火山学会メーリングリストに7月30日送信しました)

【北海道大学大学院理学研究院自然史科学部門地球惑星システム科学】

1. 募集人員 助教1名
2. 所 属 大学院理学研究院自然史科学部門地球惑星システム科学分野
3. 専門分野 地球化学・宇宙化学分野
4. 職務内容 大学院理学院博士課程、修士課程及び理学部（総合教育部を含む。）にかかる教育研究に従事するとともに、大学における各種委員会委員等の管理運営業務に従事。
5. 応募資格 博士号を取得していること。本分野の教員と協力して教育研究を行える方。天然における希ガスのナノ領域分析と挙動に興味があり、積極的に開拓する意欲のある方。実験装置のハードウェアやソフトウェアの開発の研究経験がある方が望ましい。物質科学・生命科学分野にも興味を持っている方。
6. 採用時期 2014年1月1日以降のできるだけ早い時期
7. 任 期 5年（再任不可。ただし、本研究院で定める業績審査により、契約期間の定めのない職員とすることがある。）
8. 給 与 国立大学法人北海道大学職員給与規程による
9. 勤務形態 専門業務型裁量労働制を適用
10. 健康保険等 文部科学省共済組合、労災保険、雇用保険加入
11. 提出書類
 - (1) 履歴書（内外の学会活動、受賞歴、参加しているプロジェクト研究歴、各種研究費受領歴なども記載すること）

※なお、2013年4月1日以降、北海道大学に在職経験（非常勤講師、TA、RA、短期支援員等すべての職種を含む。）のある者は、当該職歴を漏れなく記

載すること。

- (2) 業績目録（和文のものは和文で表記すること）

A. 査読のある原著論文

B. 査読のない論文、総説など

C. 著書

D. 解説、報告などその他の出版物で特に参考になるもの

- (3) 主な原著論文の別刷5篇以内（複写可）

(4) これまでの研究経過（2,000字程度）

(5) 今後の教育・研究の計画・抱負（2,000字程度）

(6) 応募者について照会が可能な方2名の氏名と連絡先（電話番号、電子メールアドレス）

12. 選考方法 地球惑星システム科学分野人事選考委員会において書類選考、面接を実施することがある。

※面接に係る旅費・滞在費は応募者負担となりますのでご了承ください。

13. 提出期限 2013年10月31日（木）書類必着のこと

14. 提出先 〒060-0810 札幌市北区北10条西8丁目

北海道大学大学院理学研究院地球惑星システム科学分野

竹下 徹（TEL：011-706-4636, FAX：011-746-0394, email：torutake@mail.sci.hokudai.ac.jp）

封筒表面に「助教応募書類」と朱記し書留で郵送してください。

応募書類は原則として返却いたしません。

15. 問合せ先 提出先と同じ

北海道大学では男女共同参画基本法が制定されて以来、男女共同参画社会の実現を目指して、様々な取り組みを行っています。教員の公募に関しても、その精神に則り教員の選考を行います。詳しくは以下をご覧ください。

(<http://www.hokudai.ac.jp/jimuk/soumubu/jinjika/>

[kyoudosankaku/](http://www.hokudai.ac.jp/jimuk/soumubu/jinjika/kyoudosankaku/))

(上記のお知らせは火山学会メーリングリストに8月21日送信しました)

○その他の公募

【女性科学者に明るい未来をの会】

第34回猿橋賞募集

- 1) 対 象：推薦締切日に50才未満で、自然科学の分野で、「創立の主旨に沿った」優れた研究業績を収めている女性科学者
- 2) 表彰内容：賞状、副賞として賞金30万円、1件（1名）
- 3) 応募方法：当会のホームページ <http://www.saruhashinet/> から推薦書類をダウンロードし、A4用紙に印

刷して、1.推薦者（個人・団体、自薦も可）・受賞候補者の略歴・推薦対象となる研究題目 2.推薦理由（800字程度）、及び3.研究題目に関連する主な業績リスト（指定は1頁です。やむを得ない場合でも追加は1頁までです）を記入して、主な論文別刷5編程度（2部ずつ、コピーも可）を添え、5)の推薦書類送付先までお送り下さい。

4) 締切日：2013年11月30日（必着）

5) 推薦書類送付先：

〒270-1147 千葉県我孫子市若松 165-5

女性科学者に明るい未来をの会

（当会の本宛先は推薦書受付専用です。書類は、猿橋賞選考のためにのみ選考委員会などで用いられます。書類は返却いたしませんのでご了承下さい）

今後、募集要項に変更がある場合は、ホームページに掲載いたしますので、応募の際はホームページをご確認下さい。なお、この件についての問い合わせは、下記に電子メールでお願いいたします。

saruhashi2014@saruhashi.net

（上記のお知らせは火山学会メーリングリストに7月2日送信しました）

【朝日新聞文化財団】

「朝日賞」候補者推薦のお願い

「朝日賞」は、1929（昭和4）年に朝日新聞社が創刊50周年を記念して創設したものです。

人文や自然科学など、わが国のさまざまな分野において傑出した業績をあげ、文化、社会の発展、向上に多大な貢献をされた個人または団体にお贈りしております。広く各界の皆様から候補者のご推薦を頂戴したあと、さらに幅広くご意見を伺ったうえ、朝日賞選考委員会で慎重に審議し、受賞者を決定いたします。

会員の方で、推薦する方がございましたら、8月19日（月）までに日本火山学会事務局にお知らせください。（上記のお知らせは火山学会メーリングリストに7月5日送信しました）

【独立行政法人海洋研究開発機構】

平成26年度研究船利用課題の募集について

独立行政法人海洋研究開発機構では、平成26年度の海洋研究の実施にあたり、弊機構が運航する「なつしま」、「よこすか」、「かいいい」、「みらい」等を利用する課題の公募を行います。

募集期間：平成25年7月4日（木）

～平成25年7月24日（水）午後5時必着

詳細はウェブサイトをご覧ください。

http://www.jamstec.go.jp/maritec/j/public_offering/application/2014/

（上記のお知らせは火山学会メーリングリストに7月5日送信しました）

【気象庁】

国家公務員一般職（大卒程度）平成25年度官庁訪問及び業務説明会のご案内（気象庁）

気象庁への就職をお考えの学生の皆様へ

気象庁は平成25年度4月は一般職（旧Ⅱ種）についての募集を行いませんでしたが、この度、平成26年度分、及び平成25年度10月以降からの中途採用分についての募集を行うことになりました。

一般職試験合格発表日である7/10の14時から官庁訪問の予約を受け付けますので、ご希望される方は電話等により申し込みを行って下さるようお願いいたします。

詳しくは

<http://www.jma.go.jp/jma/kishou/intro/recruit/info/2syu.html>

<http://www.jma.go.jp/jma/kishou/intro/recruit/info/25>

[setumeikai.html](http://www.jma.go.jp/jma/kishou/intro/recruit/info/25)

をご覧ください。

なお、総合職（旧Ⅰ種）に関しては既に平成26年度採用に関する官庁訪問の申し込みは終了しております。

（上記のお知らせは火山学会メーリングリストに7月5日送信しました）

【東京大学地震研究所】

平成26年度地震研究所共同利用・特定研究課題登録のお知らせ

1. 登録事項：特定共同研究 A（「次期予知研究計画」(A-01)を除く）、特定共同研究 B、及び特定共同研究 C の研究課題
2. 登録資格：国立大学法人、公・私立大学及び国・公立研究機関の教員・研究者又はこれに準じるもの。
3. 登録方法：地震研究所共同利用ホームページから書式をダウンロードして WEB より提出下さい。
（提出先）<https://www.pasreg.jp/reg/top/erikyodo/author>
（書式）<http://www.eri.u-tokyo.ac.jp/sharing/info.html>
4. 登録期限：平成25年7月31日（水）
5. 提出先：〒113-0032 東京都文京区弥生 1-1-1 東京大学地震研究所研究支援チーム（共同利用担当）
TEL：03-5841-5710,1769 Fax：03-5689-4467
E-mail：k-kyodoriyo@eri.u-tokyo.ac.jp

【共同利用 HP：URL】

<https://www.pasreg.jp/reg/top/erikyodo/author>

(上記のお知らせは火山学会メーリングリストに7月17日送信しました)

○シンポジウム等のお知らせ

【第14回地震火山子どもサマースクールのお知らせ】

南の海からやってきた伊豆半島を、第一線の研究者と一緒にめぐりながら、大きな地球の活動を探し、大地や風景のものがたりを読み解きます。

日 程：2013年8月3日(土)～4日(日)

主任講師：小山真人(静岡大学教育学部教授)

集合・解散：道の駅「下田開国みなど」

(静岡県下田市外ヶ岡1-1)

参加条件：小学5年生～高校生(全行程、保護者の同伴や特別の支援が必要なくても参加できる方)

定員40名(参加希望者が定員をこえた場合は、学年などを考慮し先着順で締め切ります。)

参加費：3000円(宿泊費・食費・保険代含む)

宿泊場所：南伊豆町妻良(複数施設に分宿)

応募方法：ホームページ(<http://www.kodomoss.jp/ss/izugeopark/>)にある募集要項をご確認のうえ、参加申込書に必要事項を記入し、郵送かFAXで下記申し込み先まで送付してください。申し込み締切は7月21日(必着)。

その他：2日目の午後には、一般市民の方も参加する公開フォーラムと子ども達による発表会を行います。保護者の方もぜひご参加ください。

【主 催】 第14回地震火山子どもサマースクール実行委員会

(公益社団法人日本地震学会、特定非営利活動法人日本火山学会、一般社団法人日本地質学会、伊豆半島ジオパーク推進協議会)

【お問い合わせ・お申込み】

伊豆半島ジオパーク推進協議会事務局

〒414-8555 静岡県伊東市大原2-1-1

TEL：0557-32-1784 FAX：0557-38-2867

メール：info@izugeopark.org

(上記のお知らせは火山学会メーリングリストに7月11日送信しました)

【新潟大学】

火山砕屑性堆積物WS講演会のご案内

(重複受信の方はご容赦下さい)

新潟大学にて、下記の要領で「火山学・火山防災学：公開学術講演会」を開催しますのでぜひご参加下さい。講演会は無料で、事前受付も不要です。

火山学・火山防災学：公開学術講演会(火山砕屑性堆積物ワークショップ 第1部)

日 時：7月29日(月)16時～18時

場 所：新潟大学五十嵐キャンパス

中央図書館ライブラリーホール

http://www.niigata-u.ac.jp/top/access_ikarashi.html

ハンス・ウイリッヒ・シュミンケ博士(ドイツ・キール大学名誉教授)

「Volcanoes and volcanic system — a 50-year journey around the Earth — (火山とそのシステム—地球を巡る50年の軌跡—)」

隅田まり博士(ドイツ・キール大学研究員)

「トルコ東アナトリアにおける火山研究」

主 催：火山砕屑性堆積物ワークショップ実行委員会

共 催：新潟大学理学部/災害・復興科学研究所/教育学部

※1) 講演会終了後、大学生協第1食堂にて講師の先生方を囲み、ウェルカムパーティーを行います(参加費3000円)。ウェルカムパーティーに参加ご希望の方は7月24日(水)までに新潟大学理学部地質科学科高澤(takazawa@geo.sc.niigata-u.ac.jp)までご連絡下さい。

※2) ワークショップ第2部のpyroclastic rocks ショートコース(講義+顕微鏡観察実習)の受付は終了しました。

(上記のお知らせは火山学会メーリングリストに7月19日送信しました)

【第2回G-EVER国際シンポジウム、第1回IUGS・日本学術会議国際ワークショップ】

アジア太平洋地域の災害とリスクマネジメント：沈み込み帯の地震・津波・火山噴火・地すべり

2nd G-EVER International Symposium and the 1st IUGS&SCJ International Workshop on Natural Hazards

Hazard and Risk Management in Asia-Pacific Region: Earthquake, Tsunami, Volcanic Eruption and Landslide in Subduction Zones

期 間：2013年10月19日(土)～20日(日)(2日間)

場 所：仙台市情報・産業プラザ

(<http://www.siip.city.sendai.jp/netu/>)

主 催：G-EVER コンソーシアム、産業技術総合研究所地質調査総合センター、国際地質科学連合(IUGS)、日本学術会議

日 程：10月19日(土)9:00-18:30 講演会

10月20日(日)9:00-18:30 講演会&総合討論

10月19日9:00-20日18:30 ポスターセッション

プログラム等の詳細は下記HPをご覧ください。

<http://g-ever.org/en/symposium/symposium2.html>

(英語版)

<http://g-ever.org/ja/symposium/symposium2.html>

(日本語版)

一般講演(ポスター)の申込み締切は8月20日(火)となっております。

参加料は無料となっておりますので、ぜひご参加頂ければ幸いです。

発表無しの参加も歓迎します。

なお、2013年3月11日に産総研で開催されました第1回G-EVER国際シンポジウムのプロシーディングスは下記でご覧になれます。

<http://g-ever.org/ja/symposium/symposium1.html>

(上記のお知らせは火山学会メーリングリストに8月5日送信しました)

○その他のお知らせ

【EPS誌に関するアナウンス】

日本火山学会会員の皆様

欧文誌“Earth, Planets and Space”(EPS誌)への論文投稿・査読・編集など、会員の皆様には大変お世話になっています。

以下、EPS誌に関するアナウンスです。

平成25年度の研究成果公開促進費(科研費)へのEPS誌の申請が採択され、2014年1月以降の電子出版に関する入札を行い、7月4日にSpringer社との契約手続きが完了しました。SpringerOpenからの出版となります。

<http://www.springeropen.com/>

現在、SpringerOpenでの投稿受付準備を進めておりますが、8月中旬に投稿受付開始できる見込みです。既に会員の皆様にお知らせしておりますが、この後の投稿論文は全てオープンアクセスとなり、冊子体は印刷されません。SpringerOpenに投稿された論文が受理された場合は、2014年1月以降に電子出版となります。

従来のe-letter、Research Newsを廃止し、今後の論文カテゴリは以下となります。

- ・ Full Paper: 通常論文(ページ制限無し)
- ・ Letter: 速報性・独創性のある短い論文(8ページ以下)
- ・ Frontier Letter: 8ページ以下の優れた論文(無料;原則招待論文)
- ・ Technical Report: 機器開発・ソフトウェア技術・データベース作成など、他誌では扱いにくいもの

オープンアクセス化に伴い、図書館購読料収入が無くなりますが、出版に必要な費用を論文掲載料(Article Processing Charge: APC)として著者に負担いただくこととなります。そのかわりにこれまで課金されていたカラーページチャージは無くなります。オープンアクセス化へのビジネスモデル転換の急激な変化を緩和させるために、科研費および学会分担金でAPCの補助をしますが、6月20日のEPS誌臨時拡大運営委員会(5学会会長およびEPS誌運営委員)で2014年のAPCが以下と決まりましたのでアナウンスさせていただきます。

一般著者: 600ユーロ(ページ制限無し)

会員著者: 200ユーロ(ページ制限無し)

Frontier Letter: 無料(8ページ以下)

特集号: 100ユーロ(Letter: 8ページ以下のみ)

会員著者の減額対象はCorresponding Authorとなります。

Corresponding Authorが5学会会員で無い場合でも、筆頭著者が5学会会員であれば減額対象となります。

なお、発展途上国の著者はSpringerの負担でAPC免除となります。発展途上国著者についての詳細は以下をご覧ください。

<http://www.springeropen.com/authors/oawaiverfund>

特集号の扱いは以下となります。

- ・ 特集号はLetterに限って減額支援
- ・ 特集号の投稿期限を過ぎた論文は減額支援しない
- ・ Full Paperも通常価格で(会員は会員価格で)掲載可
- ・ 特集号論文1-3編は無料にできる(招待論文として;とりあえず最初の2年)

APCについては投稿状況および財政状況を見ながら毎年見直しを行う予定です。

投稿手続きの詳細および投稿受付開始日は追ってアナウンスさせていただきます。

今後ともEPS誌をよろしくお願いたします。

EPS誌運営委員

金子隆之・前野深・嶋野岳人

(上記のお知らせは火山学会メーリングリストに7月8日送信しました)

【2012年EPS賞およびEPS特集号について】

EPS誌に関するアナウンスです。

(1) 2012年EPS賞

東京大学地震研究所田中宏幸教授が2012年EPS賞を受賞しました。

受賞論文: Development of a portable assembly-type cosmic-ray muon module for measuring the density structure of a column of magma

著者: Hiroyuki K. M. Tanaka, Tomohisa Uchida, Manobu

- Tanaka, Hiroshi Shinohara, and Hideaki Taira 7/20
<http://www.terrapub.co.jp/journals/EPS/award.html> 7/21
 (2) EPS 特集号 “Shinmoe-dake Eruption in 2011-An Example of Less-Frequent Magmatic Activity-” Open Access にて 7/22 (巡検バス案内補助)
 電子出版されました。 7/23
<http://www.terrapub.co.jp/journals/EPS/frame/65.html> 7/24

EPS 編集委員長 小川康雄
 (上記のお知らせは火山学会メーリングリストに7月8日送信しました)

○ IAVCEI 関連のお知らせ

【IAVCEI2013 アルバイト募集について (追加募集)】

日本火山学会 会員各位 2013 年 7 月 20 日～24 日に鹿児島市にて IAVCEI2013 が開催されます。本会議運営についてお手伝いいただけるアルバイトの方を以下のとおり募集いたします。

アルバイト対象：学部学生・大学院生・一般

募集人数：40 名程度

アルバイト条件：日給 10,000 円，交通費支給なし

アルバイト時間：7/19～7/24。1 日単位での勤務とする
 (なお 7/19 は半日)

アルバイト内容：配布物封入，会場準備，学会受付，講演会におけるタイムキーパー，照明，マイク係，PC 操作，巡検バス案内補助等 (英語によるコミュニケーションができることが望ましい)

※なお，本アルバイトに参加される方で，講演発表がない方は登録料免除となります (既にお支払いの方についても返金いたします)。

アルバイトを希望の方は，以下のフォームに必要事項を記入の上，件名「IAVCEI2013 アルバイト応募」のメールを iavcei2013reg@ech.co.jp までお送りください (締め切り 6/10)。

採択はおってご連絡差し上げます。

件名「IAVCEI2013 アルバイト応募」

-
1. 名前 (ふりがな)
 2. 所属
 3. 学年
 4. 連絡先電話番号
 5. 連絡先メールアドレス
 6. 英語コミュニケーション能力 (いずれかを選択)
 - ①全く話せない
 - ②挨拶程度であれば可
 - ③抵抗なく話せる
 7. アルバイト希望および可能日 7/19 (午後のみ)

 (上記のお知らせは火山学会メーリングリストに5月23日送信しました)

【IAVCEI-related workshop のお知らせ】

皆様

7 月に鹿児島市に開催される IAVCEI2013 後の 7 月 25 日 (木)，“RHEA：A collaborative database for rheological magmatic properties”と題する火山現象のレオロジーに関する workshop を，IAVCEI と同じ宝山ホールにて開催します。

(詳細は添付の PDF および Web site http://www.iavcei2013.com/related_meetings/related_meetings.html#W07 をご参照ください。)

興味のある方，講演を希望される方は，6 月 8 日までに石橋 (shishib@ipc.shizuoka.ac.jp) までお知らせください。

以上，よろしくお願ひいたします。

静岡大学 石橋秀巳

(上記のお知らせは火山学会メーリングリストに6月1日送信しました)

○秋季大会関係

【2013 年日本火山学会秋季大会のお知らせ】

日本火山学会 2013 年度秋季大会は，福島県猪苗代町の猪苗代町体験交流館「学びいな」で開催されます。猪苗代町は磐梯山南麓に位置し，東北地方でも有数の景勝地である裏磐梯地域や，歴史史跡が多い会津若松市や喜多方市などにも近接した地域です。

今大会は，磐梯山ジオパーク協議会 (猪苗代町・磐梯町・北塩原村) との共催となります。火山防災シンポジウムや子供向け公開講座，現地ガイドによる磐梯ジオパークツアーが会期中に予定されています。また男体・那須火山と磐梯・吾妻火山での現地討論会を企画しています。

<http://www.kazan-g.sakura.ne.jp/doc/kazan2013/>

1. 会期・会場
 - 1.1 会期
 - 学術講演会：2013 年 9 月 29 日 (日曜日)～10 月 1 日 (火曜日)
 - シンポジウム及び公開講座：9 月 28 日 (土曜日)

現地討論会：

9月27～28日（男体・那須火山）案内者：伴 雅雄・石崎泰男

10月1～2日（磐梯・吾妻火山）案内者：藤縄明彦・山元孝広・長谷川健

1.2 会場

猪苗代町体験交流館「学びいな」

〒969-3123 福島県耶麻郡猪苗代町鶴田141番地1
JR 磐越西線 猪苗代駅から約2km.

大会期間中は、大会会場と猪苗代町駅・猪苗代町中心街とのアクセスのために、マイクロバス送迎（午前2便、昼1便、午後2便）を予定しています。

2. 講演申込み

7月1日より受付を開始します。Web（または郵送）により投稿ください。

投稿締切り：

Webによる申し込み：8月8日 午後4時

投稿先 URL：http://www.kazan-g.sakura.ne.jp/doc/kazan2013/application.html

予稿原稿送信先

kazan-taikai@ymail.plala.or.jp

郵送による申し込み：8月1日学会事務局必着

郵送による投稿先（郵送先）

〒113-0033 東京都文京区本郷6-2-9-406

日本火山学会事務局

3. 参加料（講演予稿集込み）

会員：2,000円（学生・満70歳以上は半額）

非会員：4,000円

※予稿集のみの販売も同額になります。学会事務局にお申し込みください。

発行は9月下旬を予定しています。

※学部学生・高校生等の参加料は無料ですが、予稿集は別途購入してください（1,000円）

4. 講演・ポスター

口頭発表の1講演は質問を含め15分です。

ポスターパネルの大きさは縦165cm×横112cmです。

ポスター会場には電源がありませんので、電源の必要なパソコンやビデオの使用はできません。口頭発表数に余裕がある場合、ポスター発表内容を講演会場にて簡単に口頭説明していただく場合があります。

4. 秋季大会に関する連絡先

〒113-0033 東京都文京区本郷6-2-9-406

日本火山学会事務局 03-3813-7421

2013年度秋季大会実行委員会

E-mail：ynakamu787@gmail.com

皆様のご参加をお待ちしております。

（上記のお知らせは火山学会メーリングリストに6月28日送信しました）

【火山学会2013年秋季大会のご案内】

日本火山学会会員の皆様

日本火山学会2013年度秋季大会は、福島県猪苗代町の猪苗代町体験交流館「学びいな」で開催されます。

学術講演会のほか、火山防災シンポジウムや子供向け公開講座が会期中に予定されています。また男体・那須火山と磐梯・吾妻火山での現地討論会や、現地ガイドによる磐梯ジオパークツアーも企画しています。

詳細・各種申し込みについては、大会ホームページ <http://www.kazan-g.sakura.ne.jp/doc/kazan2013/> をご覧ください。

●主な日程

学術講演会：2013年9月29日（日）～10月1日（火）

現地討論会：9月27（金）～28日（土）（男体・那須火山）

10月1（火）～2日（水）（磐梯・吾妻火山）

ジオ・ツアー：9月28日（土）午前・10月2日（火）午後

シンポジウムおよび公開講座：9月28日（土）

●各種締切り

○講演申し込み：8月8日（木）午後4時 <http://www.kazan-g.sakura.ne.jp/doc/kazan2013/application.html>

（講演申込書と予稿集原稿の提出が必要です。郵送申込の場合は8月1日（木）学会事務局必着）

○巡検・ジオツアー参加 8月31日（それぞれメールにて申し込み）

○昼食・懇親会 9月20日（大会HPより申し込み <http://www.kazan-g.sakura.ne.jp/doc/kazan2013/LunchBox.html>）

●その他

大会期間中は、大会会場と猪苗代町駅・猪苗代町中心街とのアクセスのために、マイクロバス送迎（午前2便、昼1便、午後2便）を予定しています。

大会会場は周辺の飲食店・コンビニエンスストアから1～1.5km離れているため、昼食弁当の予約販売をおこないません。ご利用ください。

（上記のお知らせは火山学会メーリングリストに8月1日送信しました）

【火山学会秋季大会投稿締は8月8日午後4時】

火山学会秋季大会（9月29日～10月1日：学術講演会）の講演申込み締め切りは8月8日（午後4時）を予定し

ております。発表予定の皆様は申込みをよろしくお願ひいたします。

講演申込みフォームはこちら：

<http://www.kazan-g.sakura.ne.jp/doc/kazan2013/application.html>

なお、講演要旨原稿（PDF 原稿）は、8月14日（木）午後4時までにメール添付にて

kazan-taikai@ymail.plala.or.jp

までお送りください。すでに投稿されている講演要旨の差し替えも8月14日まで受け付けます。

なお講演申込み締め切りは8月8日（午後4時）です。発表をご予定の方はウェブ上での講演申込手続きを先にお願ひします。

以上よろしくお願ひいたします。

（上記のお知らせは火山学会メーリングリストに8月7日送信しました）

【訂正】火山学会秋季大会投稿締は8月8日午後4時

※本日午前中にお知らせいたしました講演要旨原稿（PDF 原稿）の提出期限に誤りがありました。

大変申し訳ございません。

以下のとおり訂正いたします。

（誤）講演要旨原稿（PDF 原稿）は、8月14日（木）午後4時までにメール添付にて～

【正】講演要旨原稿（PDF 原稿）は、8月14日（水）午後4時までにメール添付にて～

火山学会秋季大会（9月29日～10月1日：学術講演会）の講演申込み締め切りは8月8日（午後4時）を予定しております。

発表予定の皆様は申込みをよろしくお願ひいたします。講演申込みフォームはこちら：

<http://www.kazan-g.sakura.ne.jp/doc/kazan2013/application.html>

なお、講演要旨原稿（PDF 原稿）は、8月14日（水）午後4時までにメール添付にて

kazan-taikai@ymail.plala.or.jp

までお送りください。

すでに投稿されている講演要旨の差し替えも8月14日まで受け付けます。

なお講演申込み締め切りは8月8日（午後4時）です。発表をご予定の方はウェブ上での講演申込手続きを先にお願ひします。

以上よろしくお願ひいたします。

（上記のお知らせは火山学会メーリングリストに8月7日送信しました）

【本日締切】火山学会秋季大会講演申込み

火山学会秋季大会（9月29日～10月1日：学術講演会）の講演申込み締め切りは【本日!!】8月8日（午後4時）です。

発表をご予定の方は締め切りまでにウェブ上での講演申込手続きをお願ひします。

講演申込みフォームはこちら：

<http://www.kazan-g.sakura.ne.jp/doc/kazan2013/application.html>

なお、講演要旨原稿（PDF 原稿）は、8月14日（水）午後4時までにメール添付にて

kazan-taikai@ymail.plala.or.jp

までお送りください。すでに投稿されている講演要旨の差し替えも8月14日まで受け付けます。

なお講演申込み締め切りは本日8月8日（午後4時）です。講演を予定している方は締め切りまでに申し込み手続きをお願ひします。

以上よろしくお願ひいたします。

（上記のお知らせは火山学会メーリングリストに8月8日送信しました）

○「火山」58巻2号 目次

「火山」58巻2号・目次をアナウンスいたします。

目次・掲載内容のほか、メーリングリスト限定、著者からの一言メッセージをご覧ください。

・論説「DInSAR 及び GPS によって検出された霧島山・新燃岳 2011 年噴火に伴う地殻変動」

著者：宮城洋介・小澤拓・河野裕希

人工衛星搭載 SAR センサ（ALOS/PALSAR, RADARSAT-2）のデータを用いた DInSAR 観測及び GPS 連続観測により、2011 年霧島山新燃岳噴火の前後に起こった広域の地殻変動が明らかになった。これら地殻変動の変動源は新燃岳火口から約 5 km 北西の地下 7.5 km に位置するマグマ溜りであると考えられる。このマグマ溜りはその位置を変えず、噴火前に膨張、噴火に伴って収縮、噴火後に再び膨張を起こしていた、と解釈することができる。また、各期間におけるマグマ溜りの体積変化量を見積もり、噴出物体積との比較も行った。

・論説「霧島火山新燃岳 2011 年 3 月～2012 年 2 月の降灰量調査：即時的降灰量推定の予察的検討」

著者：西来邦章・及川輝樹・古川竜太・大石雅之・中野 俊・宮城磯治

霧島火山周辺の地元自治体と連携して降灰量調査を実施し、7 回の個別の噴火について降灰量を求めるこ

とに成功しました。そして、求めた降灰量と観測された噴煙高度の関係と理論式から求められる噴出量の関係について検討しました。

・論説「Resistivity Structure of the Hiyoriyama Cryptodome at Kuttara Volcano, Hokkaido, Japan」

著者：Yoshihiko GOTO and Akira JOHMORI

北海道南西部クッタラ火山、日和山潜在ドームの比抵抗構造探査（高密度電気探査と CSAMT 探査のジョイント探査）を行い、潜在ドームの内部構造の解明を試みました。探査はドームを横断する測線上で行い、解析は高密度電気探査データと CSAMT 探査データの 2D ジョイント解析で行いました。その結果、日和山潜在ドームは、幅 150m 高さ 80m のデイサイト貫入岩体と、貫入岩体を覆う厚さ 10-30m の火砕堆積物からなることが明らかになりました。デイサイト貫入岩体の直下には、ハの字型の低比抵抗領域が存在し、この領域はスメクタイトに富み低温の熱水変質帯であると考えられます。この低比抵抗領域の直下には中比抵抗領域が存在し、ドームの供給岩脈（火道）に沿って形成された高温の熱水変質帯であると考えられます。

・解説・紹介「ユーザーインターフェイスを改良した溶岩流シミュレーションシステムとその防災上の意義」

著者：安田 敦・金子隆之・新堀賢志・藤井敏嗣

近年の PC の処理能力向上とフリーソフトウェアの充実によって、様々な火山防災用のシミュレーションを容易に実行出来る環境が PC 上に構築可能になった。本稿では、我々が啓発ツールとして試験的に動かしているシミュレーションシステムを紹介する。非専門家でも簡単かつ迅速にシミュレーションが実行できるよう、入出力は Web 経由でおこなうとともに、結果は自動的に地図に投影される。火山噴火や防災に興味を持つ多くの人に気軽に試行してほしい。

・解説・紹介「第 4 回陥没カルデラワークショップ報告」

著者：下司信夫・吉田武義・小室裕明

イタリアにて開催された陥没カルデラの諸問題を多面的に検討するワークショップについて紹介します。今回は 2014 年にニュージーランド・タウポにて開催予定ですので皆様のご参加をお待ちしております。

=====

Guidebook of Pre/Post-Conference Field Trips IAVCEI 2013, Kagoshima, Japan (CD book)

A1 「Calderas and Active Volcanoes in Central to Eastern Hokkaido」

著者：Takeshi HASEGAWA, Mitsuhiro NAKAGAWA and

Hiroshi KISHIMOTO

A2 「Unzen and Aso Volcanoes, Central Kyushu, Japan : Unzen's New Lava Dome Climb and 1991-95 Pyroclastic Flows and Aso's Active Crater and One of the Largest Calderas in Japan」

著者：Shinji TAKARADA, Yasuo MIYABUCHI, Hideo HOSHIZUMI, Takeshi MATSUSHIMA and Daisuke NAGAI

A3 「Suwanosejima-Lighthouse of East China Sea : Ongoing Strombolian Activity and Proximal Facies of the 1813 Eruption」

著者：Taketo SHIMANO, Nobuo GESHI and Hiroshi YAKIWARA

B1 「Active Volcanoes in Northeast Japan」

著者：Masao BAN, Tsukasa OHBA and Akihiko FUJINAWA

B2 「Active Volcano in Central Japan : Asama Volcano」

著者：Maya YASUI, Masaki TAKAHASHI, Takashi TSUTSUMI, Shigeo ARAMAKI, Minoru TAKEO and Yosuke AOKI

B3 「Fuji and Hakone Volcanoes : Typical Stratovolcanoes in Japan」

著者：Akira TAKADA, Kazutaka MANNEN and Takahiro YAMAMOTO

B4 「Basaltic and Rhyolitic Island Volcanoes in Izu Islands」

著者：Masashi TSUKUI, Yoshihisa KAWANABE, Jun'ichi ITOH, Koichiro SAITO and Hidefumi WATANABE

B5 「Kirishima, Sakurajima Volcanoes and their Source Calderas in Southern Kyushu」

著者：Tetsuo KOBAYASHI, Mitsuru OKUNO and Takeshi TAMEGURI

B6 「Kikai Caldera and Southern Kyushu : Products of a Large Silicic Magmatic System」

著者：Fukashi MAENO, Keiko SUZUKI-KAMATA and Shoichi KIYOKAWA

B8 「Changbaishan Volcano, the Magnificent Gift from the Nature」

著者：Jiandong XU, Haiquan WEI and Bo ZHAO

Special 「First Results from the 2012-2013 Tolbachik Fissure Eruption」

著者：E. I. GORDEEV, Ya. D. MURAVYOV, S. B. SAMOYLENKO, A. O. VOLYNETS, D. V. MELNIKOV, V. N. DVIHALO and I. V. MELEKESTSEV

=====

(上記のお知らせは火山学会メーリングリストに 7 月 8 日送信しました)

【IAVCEI2013・学会ブース設置日のお知らせ】

7月19～24日に鹿児島市において開催される IAVCEI 2013 学術総会におきまして、下記の日程で、

火山学会ブース（かごしま県民交流センター 2階中ホール）を設置します。

IAVCEI2013・学会ブース設置日：

7月20日（土）（9：00～18：00）

21日（日）（9：00～18：00）

23日（火）（9：00～18：00）

24日（水）（9：00～16：00）

火山学会グッズの販売のほか、学会入会申込や現金払いによる会費の納入を受けますので、どうぞご利用ください。なお、大会期間中を含む7月18日（木）～7月28日（日）まで、東京・本郷の火山学会事務局はお休みになりますのでご了承願います。

（上記のお知らせは火山学会メーリングリストに7月17日送信しました）